

入間市におけるCLMの取組み経過について

入間市では、心身の発達に遅れ又は障害のある児童とその家族が身近な地域で安心して暮らし、一人の自立した人間へと成長できるよう、切れ目なく一貫した支援が行える児童発達支援センターを令和2年4月から開設し、自治体としては全国で初めて国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携協定を締結しました。協定に基づく連携事業として、すべての子どもの成長発達のために、適切な支援を行うことを目的に、埼玉県内では初めて「CLM」を活用した児童の支援に取り組みを始めます。今年度は2か所の公立保育所で試験的に「CLM」を実地運用しましたので、その活動を報告します。

保育所における発達障害のある児童への支援の現状

保育所や幼稚園では、すべての子どもの成長発達に取り組んでいます。

入間市の障害者施策の基本理念の1つとして、障害のある子ども障害のない子ども、地域で共に暮らし、共に学び、共に成長していくことができるように保育・教育の環境を整備する施策及び家庭を支援する施策を推進することとしています。

絵を描くことが好きな子どもと嫌いな子どもいます。運動が得意な子どもと得意ではない子どもがいます。言葉の発達が遅れる子どももいます。子どもの成長発達は、子ども一人一人違います。

これらの児童への支援について、保育士は研修や専門職の助言を受け、支援の向上に努めておりますが、適切な支援を日常の保育の中でどのように行えばよいのか、その方法は必ずしも明らかではありませんでした。

このため、保育士が一人の児童につき切りで指導するのがせいっぱいなことも多く、保育士が現場で使える支援の手法が必要でした。

国立障害者リハビリテーションセンター学院の支援により、保育現場の困った感を解消するとともに、児童にとって楽しい保育所となるよう、保育の質の向上を目指します。

これらの保育課題を解決するよい方法がないか、国立障害者リハビリテーションセンター学院に相談したところ、「CLM」の取組みを紹介されました。

CLMは「チェックリストイン三重」の略称で、すべての子どもの成長発達のために、適切な支援を行うことを目的に三重県が開発、推進している事業であり、気になる子どもや発達障害のある子どもにも有効な支援です。

入間市ではさっそくCLM開発の中心人物である中村みゆき先生（NPO法人ライフ・ステージ・サポートみえ副理事長・前 三重県立子ども心身発達医療センターあすなろ学園副参事兼子どもの発達総合支援室長）を招いてCLM研修を実施し、今年度2か所の公立保育所でCLMを実地運用しました。令和2年10月から6か月間の取組みの結果、不安を抱えて過ごしていた子どもが自信をもって保育生活を送り、保育士が多職種と連携して取り組むなどの成果がありましたので、今回、入間市におけるCLMの取組みについて報告し、有識者等の意見をいただくため、報告発表会を開くことにいたしました。

今後、市内にCLMを展開し、インクルーシブな保育の推進と、保育の質の向上を図りたいと考えており、気になる子どもや発達障害のある子どもを含めたすべての子どもにとっても楽しい保育所の実現を目指します。

経過

平成30年9月	国リハ学院関教官・川渕教官から児童発達支援センターの設置に向けた助言をいただくようになる。
令和元年5月	国リハ学院関教官より「CLM」を紹介される。 ・中村みゆき先生に入間市での研修講師を依頼。
令和元年11月	健康福祉センターで「CLM研修」を開催。保育士等、市内で発達支援に携わる施設職員を対象。
令和2年3月	国立障害者リハビリテーションセンター学院と入間市の連携協定締結
令和2年10月	「CLM研修」を開催。保育士等、発達支援に携わる施設職員を対象に、国リハ学院での講義（1日目）と藤の台公民館での演習（2日目）で構成。演習では公立保育所2か所の事例を題材とした。
令和2年10月 ～令和3年3月	研修で作成した支援計画を2か所の公立保育所において、試験的に実地運用。おおむね1か月ごとに保育所職員、関教官、児童発達支援センター保育士、保育幼稚園課職員（保育士）が集まり、計画の評価見直しを行った。
令和2年11月	市こども支援部の部長から課長級職員を対象にCLMの推進に関する研修を実施。
令和3年2月	公立保育所長を対象にCLMの概要に関する研修を実施。
令和3年3月	児童発達支援センター運営協議会及び児童福祉審議会での報告会を開催。
令和3年度～	順次、市内公立保育所へのCLMの展開を計画